



埼玉県マスコット  
「さいたまっち」



埼玉県マスコット  
「コバトン」

2016年

埼玉の

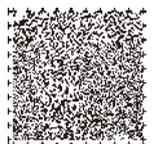
食料・農林業・農山村



音声コード (SPコード)



彩の国  
埼玉県



活字文書読み上げ装置で、情報を音声で聞く事ができます。



本県は温暖な気候や、利根川、荒川などの「水の利」、首都圏 4300 万人のマーケットの中にある産地という「地の利」など恵まれたバックグラウンドを生かし、産出額が全国第 5 位の花き、全国第 6 位の野菜をはじめ、米、麦、果樹、畜産など多彩な農産物が生産されています。また、県土の 3 分の 1 を占める森林は木材を供給するだけでなく、水源の涵養、二酸化炭素の吸収・貯蔵などにも大きな役割を果たしています。

農林業・農山村は、食品産業や観光業などと結びつき、地域の経済や県民生活に活力をもたらすなど重要な役割も担っています。また、県土の保全や水源涵養などを通じて県民生活の安心を築くとともに、美しい風景や伝統文化の維持・形成などを通じて県民の豊かな暮らしにも寄与しています。

一方、農業従事者の減少や高齢化、食料消費の変化や多様化、T P P 等によるグローバル経済の進展など農林業・農山村を取り巻く環境は大きく変化しています。

県では、こうした環境の変化に的確に対応し、農林業・農山村の持続的な発展を図るため、本年 3 月、平成 28 年度からの 5 年間に取り組むべき施策を取りまとめた「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、埼玉県の強みを生かし、農林業の「稼ぐ力」、農林業に係わる「人財力」、農山村の「地域力」を高める取組を進めることとしています。

農林業の「稼ぐ力」を高めるため、食品製造業者など需要者からの要望に応えるオーダーメイド型産地の育成や他業種と連携した農産物の高付加価値化、伐採時期を迎えた森林の皆伐・再造林による県産木材の増産と利用拡大などに取り組みます。

また、農林業に係わる「人財力」を高めるため、農業大学校における農業高校との連携強化やキャリア教育による意欲ある新規就農者の確保・育成、農業法人による雇用の促進、女性農業者の経営力向上などに取り組みます。

さらに、農山村の「地域力」を高めるため、観光農園の充実や鉄道会社等と連携した集客力の向上、移住相談窓口の開設による農山村への移住促進などに取り組みます。

こうした取組を通じて、本県農林業の成長産業化と農山村のもつ様々な機能の充実を図り、豊かで安らぎある県民生活の実現を図ってまいります。

この冊子は、埼玉農林業の現在の姿や平成 28 年度の主な施策をグラフや写真を使ってまとめたものです。県民の皆様をはじめ多くの方々の御理解を深めていただく一助となれば幸いです。

平成 28 年 7 月

埼玉県知事 上田清司

目次

1 本県の概要 ..... 1

2 全国的にみた埼玉農林業の地位 ..... 2

3 本県農林業の構造 ..... 3

4 農業生産の現状 ..... 7

5 平成 28 年度の主な食料・農林業・農山村施策 ..... 13

埼玉県のシンボル



県章



県民の鳥「シラコバト」



県の木「ケヤキ」



県の花「サクラソウ」



県の蝶「ミドリシジミ」



県の魚「ムサシトミヨ」

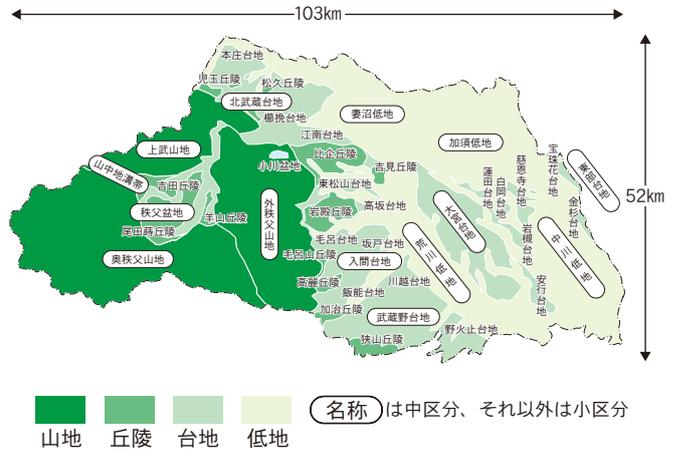
# 1 本県の概要

- 全域が都心から 100km 圏内
- 海のない内陸県
- 県土面積は国土面積の約 100 分の 1
- 県土面積に占める河川の割合は 3.9% で日本一
- 人口は全国の 5.7% を占め全国第 5 位、平均年齢は全国で 5 番目に若い
- 内陸性の太平洋側気候、温暖で自然災害が少ない
- 関東地方の主要な社会・経済拠点として将来の更なる発展が期待

## ■ 主要指標

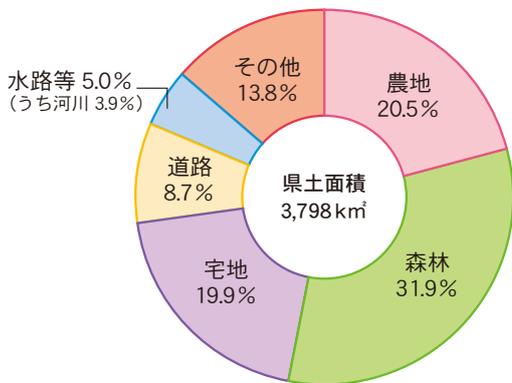
県 域	東西 103km 南北 52km
県 土 面 積 (平成 22.10.1)	3,798km <sup>2</sup> (全国の 1.0%)
総 人 口 (平成 28.4.1)	7,268,405 人 (全国の 5.7%)
総 世 帯 数 (平成 28.4.1)	2,990,514 世帯
平 均 年 齢 (平成 22.10.1)	43.6 歳 (全国で 5 番目に若い)
名目県内総生産 (平成 25 年度)	20 兆 6,782 億円
1 人当たり県民所得 (平成 25 年度)	285.9 万円
気 象 (熊谷気象台平年値)	平均気温 15.0℃ 年降水量 1,286.3mm

(総務省「国勢調査」県統計課「埼玉県統計年鑑」、「県民経済計算」)



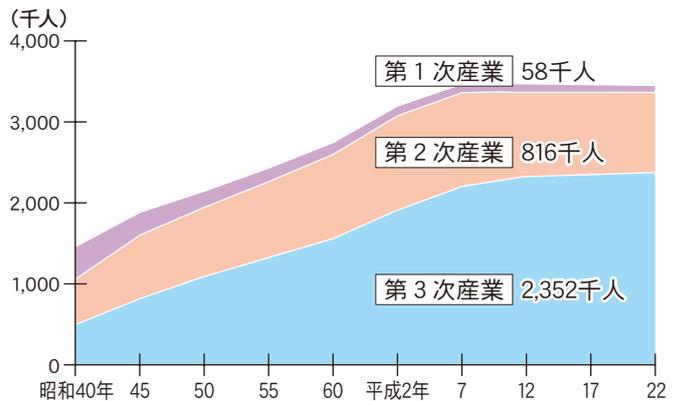
(「埼玉県の地形区分と名称図」1975 村本達郎氏による)

## 土地利用状況 (平成 25 年)



(県土地水政策課「土地利用現況把握調査」)

## 産業別就業者数の推移



(総務省「国勢調査」)

## 埼玉農業の有利な点

高い耕地率

自然災害が少なく穏やかな気象

大消費地の中の生産地

## 2

## 全国的にみた埼玉農林業の地位

## ◆ 農 業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
農家	総農家	戸	64,178	2,155,082	3.0	8	平成 27 年 2 月 1 日
	販売農家		36,743	1,329,591	2.8	14	
	専業農家		12,474	442,805	2.8	10	
	第 1 種兼業農家		4,042	164,790	2.5	19	
	第 2 種兼業農家		20,227	721,996	2.8	13	
	自給的農家		27,435	825,491	3.3	8	
	農業就業人口		人	58,575	2,096,662	2.8	
耕地	耕地面積	ha	76,300	4,496,000	1.7	17	平成 27 年 7 月 15 日
	田		42,300	2,446,000	1.7	23	
	畑		34,000	2,050,000	1.7	13	
	1 戸当たり耕地面積	ha	1.19	2.09	—	—	* 1 平成 27 年
	耕地利用率	%	88.8	91.8	—	22	平成 26 年
農業生産	農業産出額 * 2	億円	1,902	83,639	2.3	17	平成 26 年
	米		350	14,343	2.4	16	
	野菜		967	22,421	4.3	6	
	畜産		289	29,448	1.0	31	
	生産農業所得		643	28,319	2.3	17	
	生産農業所得率 * 3		%	33.8	33.9	—	
食料自給率	カロリーベース	%	11	39	—	44	平成 25 年度 (概算値)
	生産額ベース		22	65	—	43	

\* 1 県農業政策課で農林業センサスを基に算出 (農林水産省調べ)

\* 2 農業産出額及び生産農業所得の全国値は都道府県の合計値とは異なる。なお、全国比率は都道府県の合計に対する割合である。

\* 3 生産農業所得率：農業粗収益に対する農業所得（物的経費等を考慮したもの）の比率のこと。

生産農業所得率 = (農業粗収益 - 物的経費 - 間接税 + 経常補助金) ÷ 農業粗収益 × 100

## ■ 品目別産出額の全国順位 (平成 26 年産)

	ねぎ	ほうれんそう	さといも	こまつな	ブロッコリー	かぶ	えだまめ	きゅうり	バンジー	ゆり	チューリップ	洋ラン(鉢)
1 位	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	北海道	千葉	千葉	宮崎	埼玉	新潟	新潟	愛知
2 位	千葉	千葉	宮崎	茨城	埼玉	埼玉	新潟	群馬	神奈川	埼玉	埼玉	埼玉
3 位	茨城	茨城	千葉	東京	愛知	京都	埼玉	福島	静岡	高知	富山	福岡
4 位	大分	群馬	愛媛	福岡	香川	青森	群馬	埼玉	山形	宮崎	福岡	千葉
5 位	北海道	岐阜	鹿児島	群馬	長野	滋賀	山形	千葉	千葉	北海道	北海道	静岡

\* このほかにも、みずな、チンゲンサイなど多くの品目が生産されている。

(農林水産省調べ)

## ◆ 林 業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
林家 * 1	戸	7,737	906,805	0.9	41	平成 22 年 2 月 1 日	
森林面積 * 2	ha	121,260	25,081,390	0.5	41	平成 24 年 3 月 31 日	
		天然林	59,836	13,429,342	—		—
		人工林	59,860	10,289,403	—		—
		その他	1,565	1,362,645	—		—

(\* 1 : 農林水産省「農林業センサス」

\* 2 : 県森づくり課調べ、全国は農林水産省調べ)

## ◆ 関連産業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
農家	有人直売所設置か所数 * 1	か所	279	—	—	平成 27 年 3 月 31 日	
	有人直売所販売金額 * 1	億円	259	—	—		
市場	卸売市場数 * 1	か所	32	1,159	—	平成 27 年 4 月 1 日 (全国は平成 26 年度)	
	卸売市場取扱金額	億円	1,438	70,439	—	平成 26 年度	
食品製造	食料品製造出荷額 * 2	億円	15,083	241,337	6.2	3	平成 26 年
	物菜		709	8,982	7.9	2	
	アイスクリーム		467	3,398	13.7	2	
	和風めん		300	2,941	10.2	1	
	野菜漬物		162	3,183	5.1	6	
	清酒		154	4,333	3.6	5	

(\*1 : 農業ビジネス支援課調べ、全国は農林水産省調べ

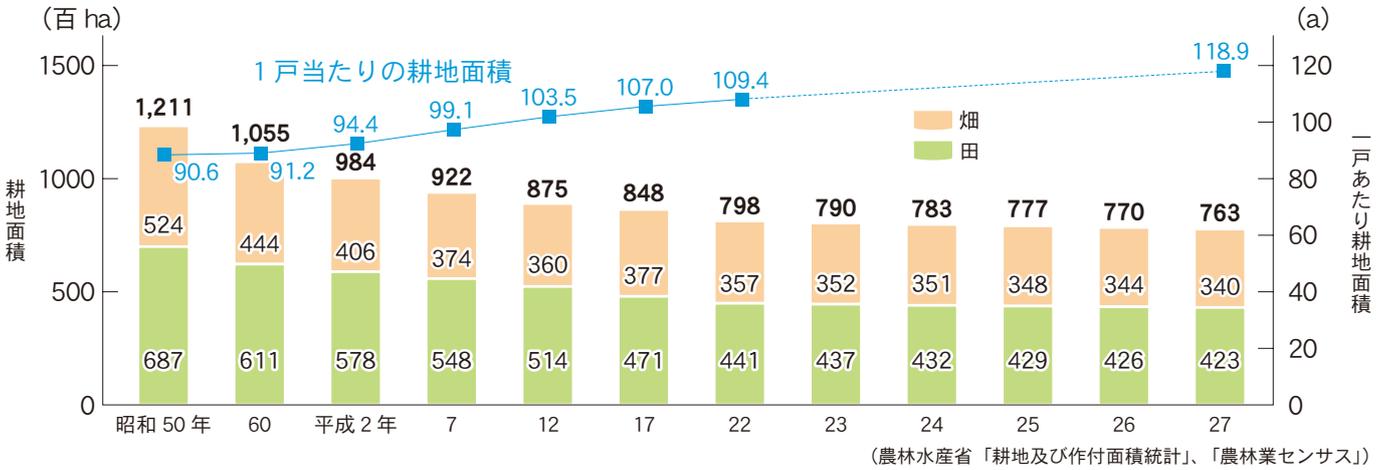
\*2 : 経済産業省「工業統計表 (品目編)」)

# 3 本県農林業の構造

## ◆ 農 業

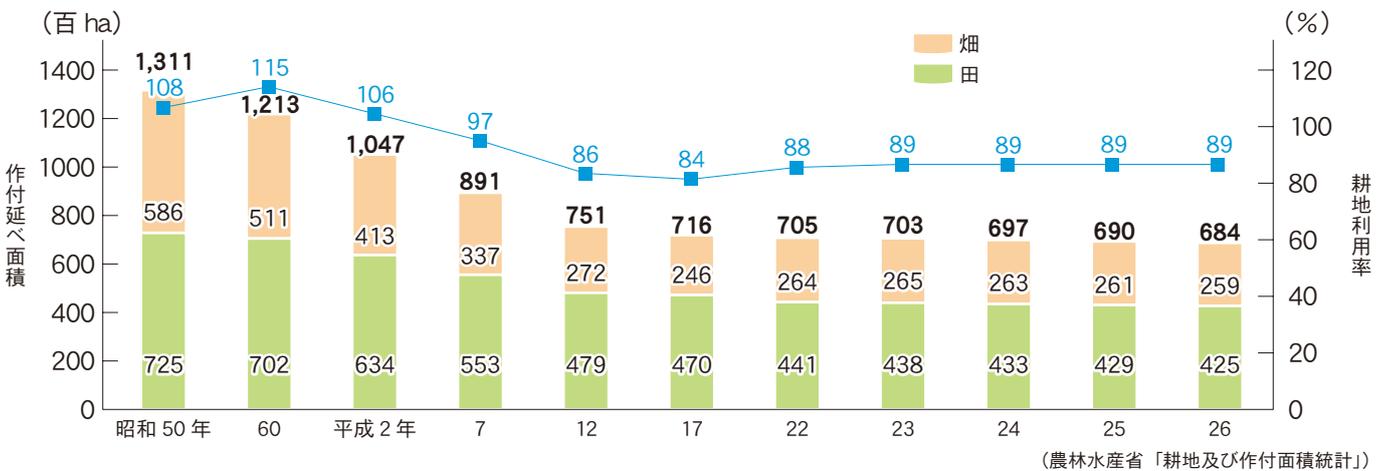
- 耕地面積は 76,300ha（田が 42,300ha、畑が 34,000ha）。
- 耕地率（県土面積に占める耕地面積の割合）は、20.1%で全国第 4 位。

耕地面積の推移



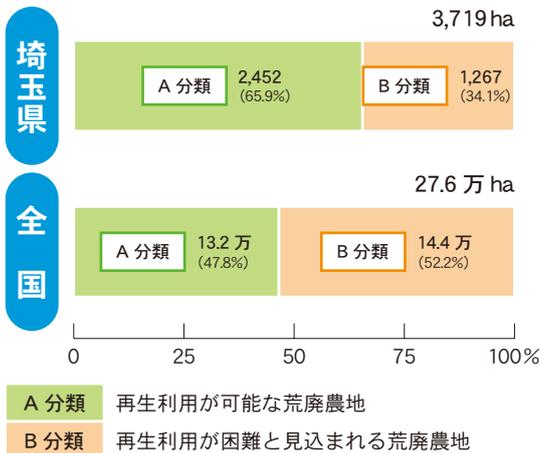
- 作付延べ面積は 68,400ha（田が 42,500ha、畑が 25,900ha）。
- 耕地利用率は 89%でほぼ横ばい。

作付延べ面積と耕地利用率の推移



- 荒廃農地面積は 3,719ha
- 農地の利用集積が進んでいます。大規模経営の農家は増加傾向。

荒廃農地面積（平成 26 年）



利用権設定面積と経営耕地規模別農家数の推移



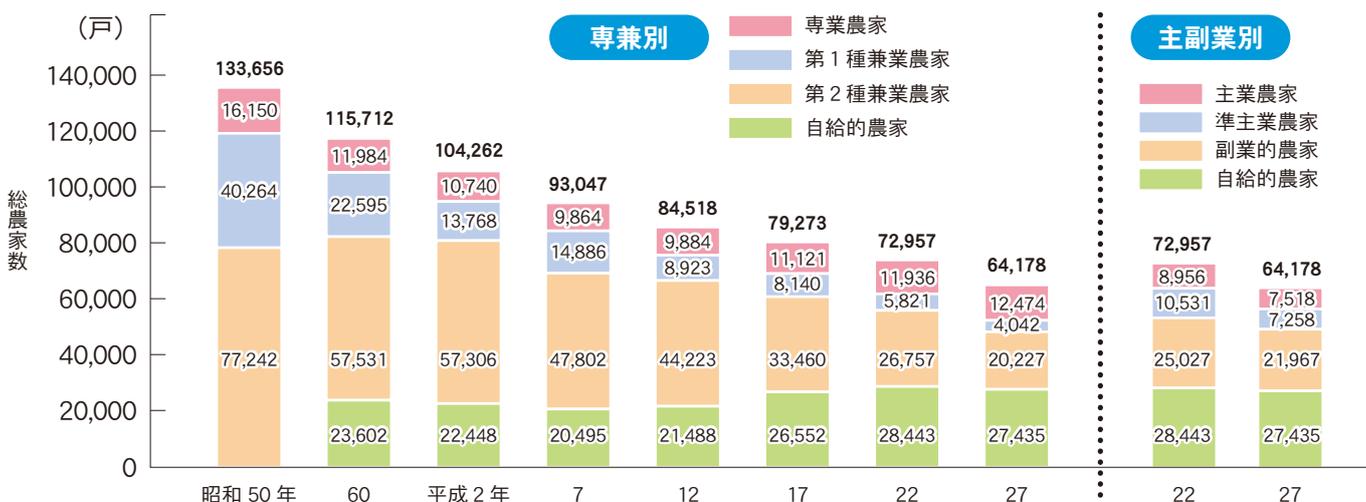
(農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査（平成 26 年）」)

・農家数：農林水産省「農林業センサス」  
 ・利用権設定面積：県農業ビジネス支援課調べ

# ◆ 農 家

● 総農家数は 64,178 戸。

### 総農家数の推移

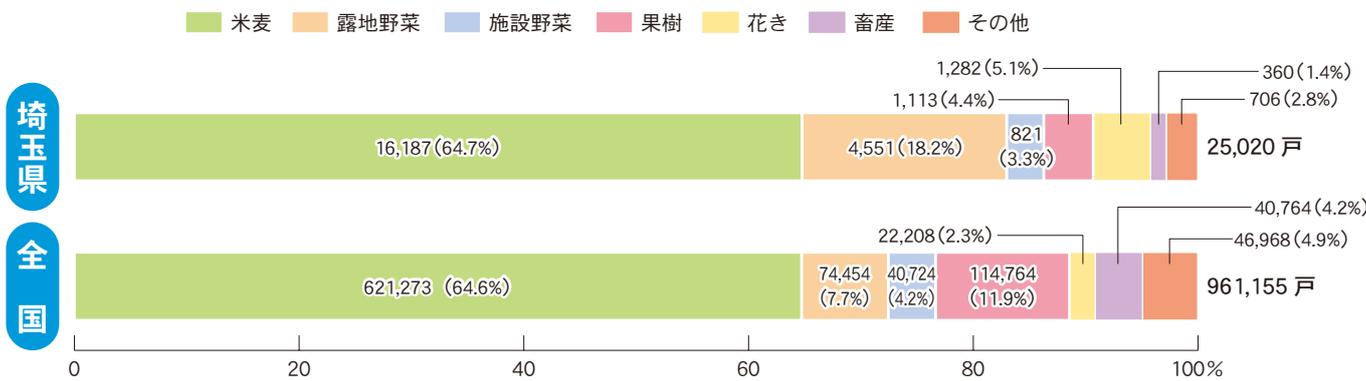


\* 専業農家……世帯員中に兼業従事者が一人もいない農家。  
 \* 第1種兼業農家……農業所得を主とする兼業農家。  
 \* 第2種兼業農家……農業所得を従とする兼業農家。  
 \* 主業農家……農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の子帯員がいる農家。

\* 準主業農家……農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の子帯員がいる農家。  
 \* 副業的農家……65歳未満の農業従事60日以上の子帯員がいない農家。  
 \* 自給的農家……経営耕地面積が30a未満で、農産物販売金額が50万円未満の農家。

● 経営部門別の販売農家数（単一経営）は、全国に比べて野菜、花き部門が多い。

### 経営部門別販売農家数（単一経営）（平成27年）

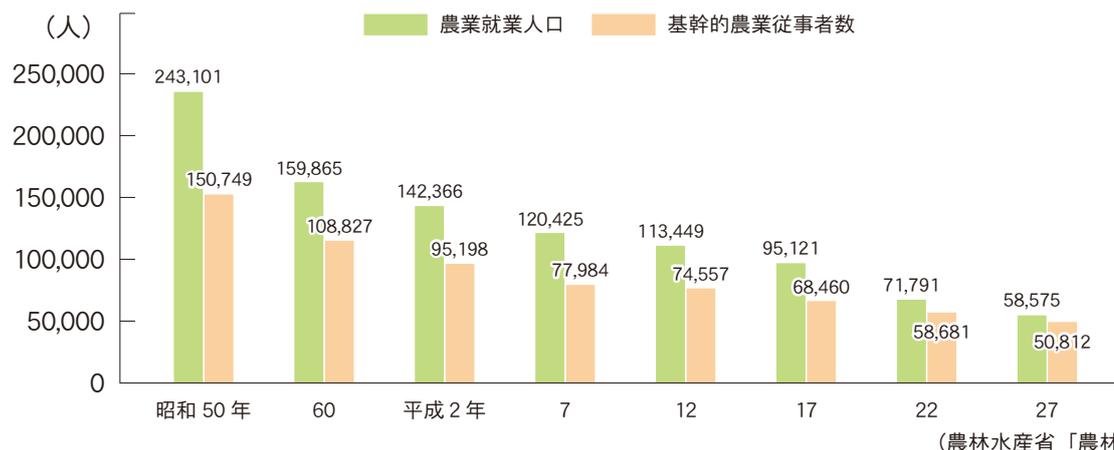


(注) 販売農家（経営耕地面積 30 a 以上または農産物販売金額 50 万円以上の農家）のうち実際に販売があった農家。（農林水産省「農林業センサス」）

# ◆ 農業労働力

● 農業就業人口は 58,575 人。（20 年間で約 50% 減少） ● 基幹的農業従事者数は 50,812 人。（20 年間で約 35% 減少）

### 農業就業人口・基幹的農業従事者数の推移



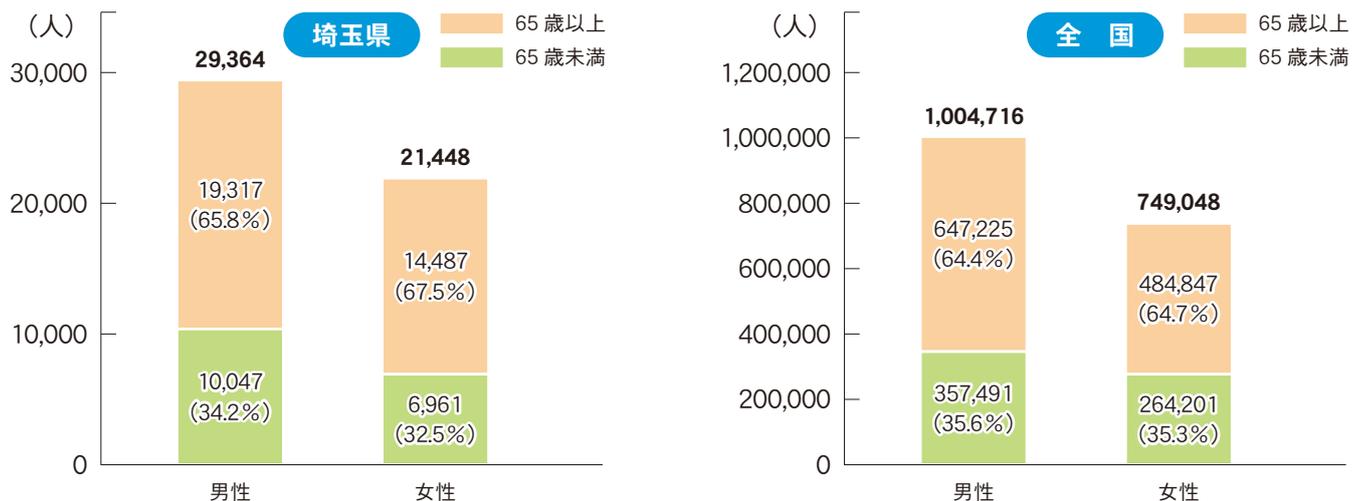
\* 農業就業人口  
 15 歳以上の世帯員で、「農業のみに従事した者」と「農業とその他の仕事に従事したが農業の従事日数の方が多い者」の合計。

\* 基幹的農業従事者  
 農業に主として従事した世帯員のうち、調査期日前1年間の普段の主な状態が仕事（農業）の者。

（農林水産省「農林業センサス」）

● 基幹的農業従事者の約 65% が 65 歳以上。

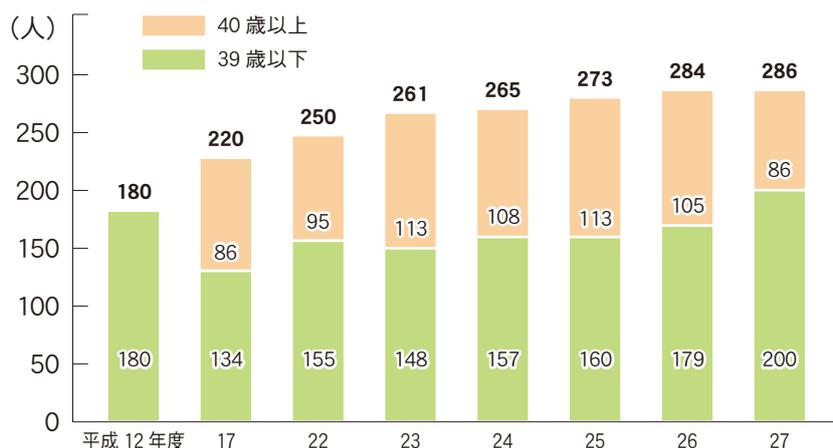
基幹的農業従事者数の性別・年齢別構成（平成 27 年）



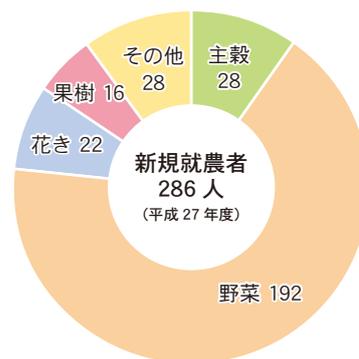
(農林水産省「農林業センサス」)

## 埼玉農業の担い手の推移

新規就農者数の推移

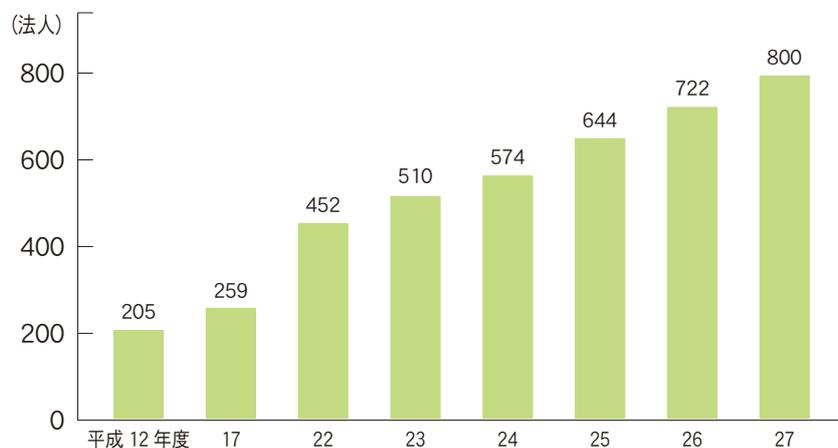


新規就農者の経営類型

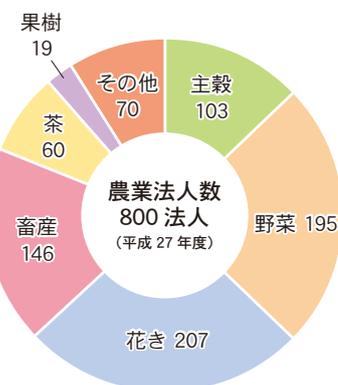


\* 調査は、9 月～8 月の 1 年間

農業法人数の推移



農業法人の経営類型

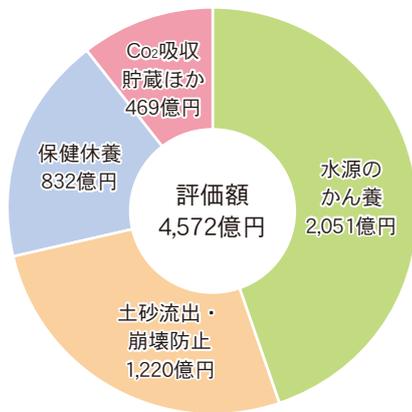


(県農業支援課調べ)

## ◆森林の現況

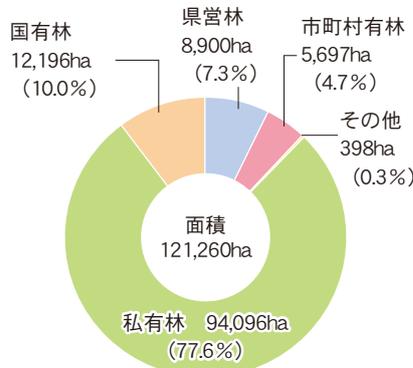
- 森林は県土面積の約 1 / 3。
- 森林は水源のかん養、土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵機能など多様な機能を持っています。
- 森林の所有形態別では私有林が約 8 割を占め、種類別では約 1 / 2 がスギ・ヒノキを中心とした人工林。

県内森林の公益的評価額

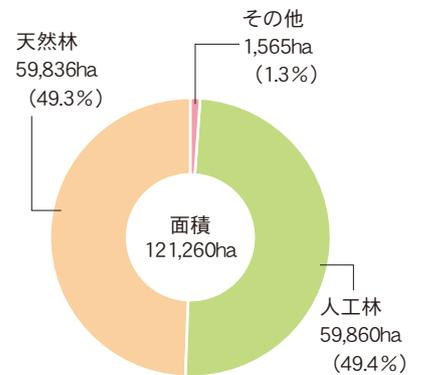


埼玉県の森林面積 (平成 24 年)

所有形態別



林種別

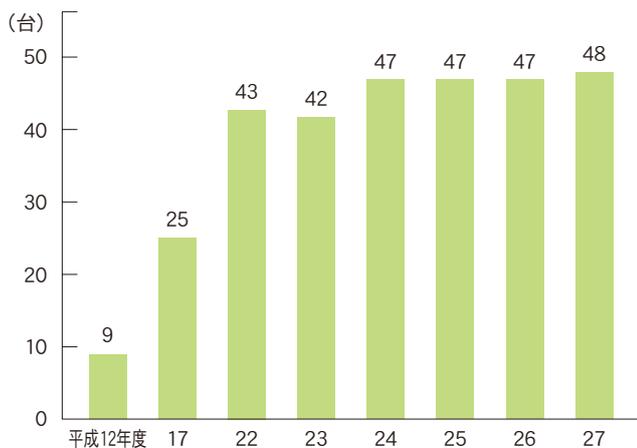


(県森づくり課調べ)

## ◆森林・林業・木材産業の取組

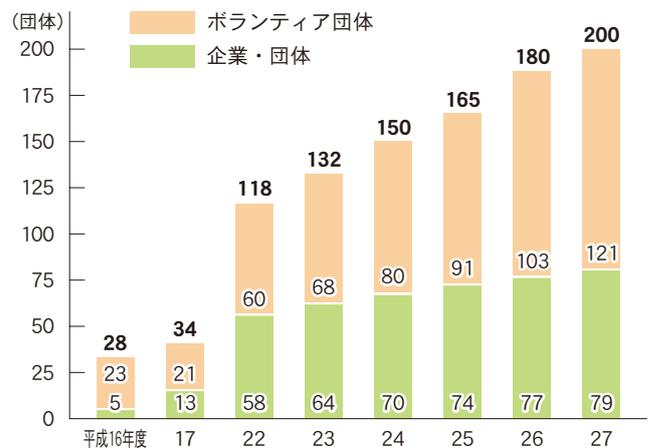
- 路網の整備、高性能林業機械の導入、低コスト造林などを促進し、林業の採算性向上に努めています。
- 植栽や間伐などの森林ボランティア活動に参加する企業や団体が増えてきています。
- 県産木材の供給量は平成 13 年度以降増加しており、平成 26 年度は 8 万 3 千 m<sup>3</sup>となっています。

高性能林業機械の導入台数



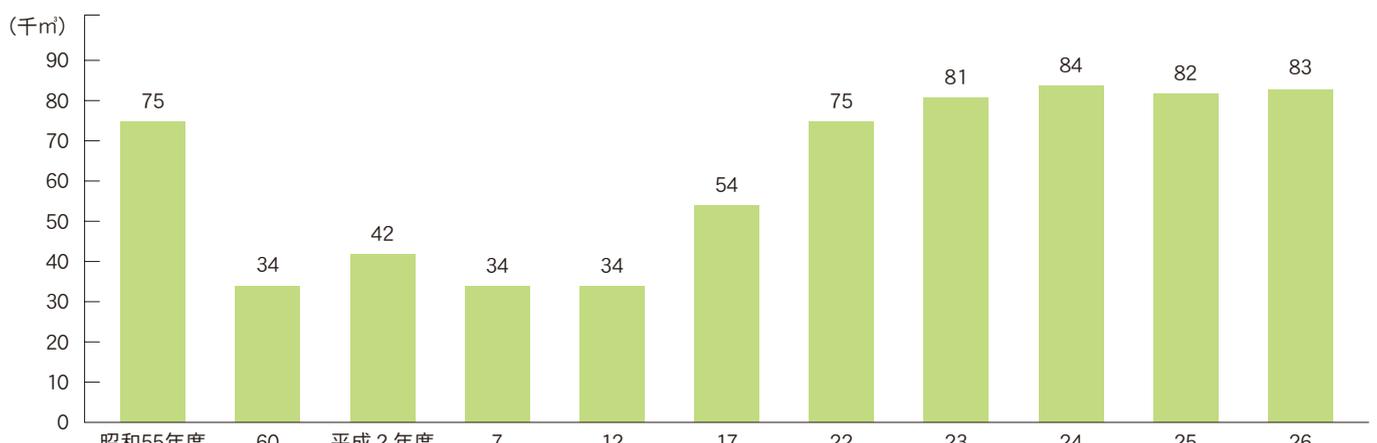
(県森づくり課調べ)

森林ボランティア活動に参加する企業・団体数



(県森づくり課調べ)

県産木材供給量の推移



(県森づくり課調べ)

# 4 農業生産の現状

## ◆農業産出額

- 平成 26 年度の農業産出額は 1,902 億円で全国第 17 位。
- 産出額日本一のねぎ、ほうれんそう、さといも、こまつなをはじめ、多くの野菜が全国トップクラス。
- 小麦、花き、茶等も全国有数の地位。

※（％）は全国シェア、〔位〕は全国順位

### 小麦 7 億円（全国第 5 位）

作付面積	収穫量
5,080ha [8位]	19,200 t (2%) [8位]
うち さとのそら 4,450ha	
あやひかり 480ha	
その他 150ha	

\*品種の内訳は県生産振興課推計値

### 果実 65 億円（全国第 31 位）

主な品目	産出額	収穫量
なし	40億円 [6位]	9,650 t (4%) [11位]
くり	3億円 [7位]	727 t (3%) [5位]
ぶどう	11億円 [21位]	1,400 t (1%) [24位]

### 茶(生葉) 13 億円(全国第 8 位)

主な品種	栽培面積	収穫量 (対主産県シェア)
やぶきた さやまかおり ふくみどり	899ha [9位]	生葉 2,560 t (1%) [14位]

### 花き 165 億円（全国第 5 位）

主な品目	産出額	出荷量
パンジー(苗)	6億円 [1位]	1,140万本 (8%) [1位]
ゆり(切花)	32億円 [2位]	2,530万本 (18%) [1位]
洋ラン類(鉢物)	26億円 [2位]	94万鉢 (6%) [4位]
チューリップ	5億円 [2位]	-

### 畜産 289 億円（全国第 31 位）

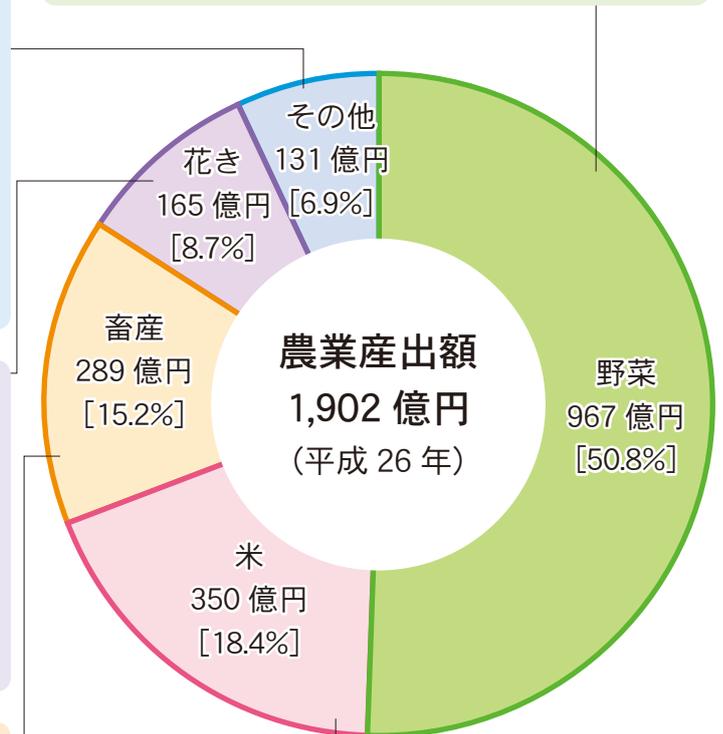
主な品目	産出額	飼養頭羽数
乳用牛	71億円 [23位]	10,900頭 (1%) [21位]
肉用牛	36億円 [33位]	19,400頭 (1%) [29位]
豚	69億円 [25位]	108,500頭 (1%) [23位]
採卵鶏	107億円 [21位]	420万羽 (2%) [19位]

\*採卵鶏の産出額は鶏卵の金額

### 野菜 967 億円（全国第 6 位）

主な品目	産出額	収穫量
ねぎ	179億円 [1位]	63,300t (13%) [2位]
さといも	77億円 [1位]	17,000t (10%) [3位]
こまつな	53億円 [1位]	17,700t (16%) [1位]
ほうれんそう	136億円 [1位]	29,200t (11%) [2位]
ブロッコリー	40億円 [2位]	15,200t (10%) [2位]
かぶ	16億円 [2位]	16,000t (12%) [2位]
えだまめ	35億円 [3位]	5,560t (8%) [4位]
きゅうり	114億円 [4位]	34,600t (6%) [4位]
はくさい	16億円 [4位]	23,400t (3%) [8位]

\*このほかにも、みずな、チンゲンサイ、やまのいもなど多くの品目が生産されていることが特徴。



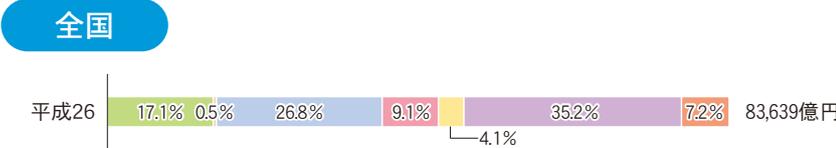
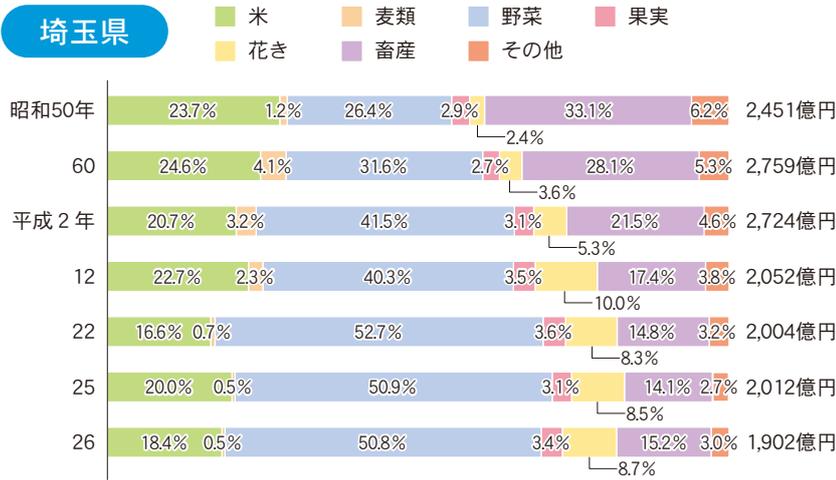
### 米 350 億円（全国第 16 位）

主な品種	作付面積	収穫量
コシヒカリ 彩のかがやき キヌヒカリ	34,400ha [16位]	172,300 t (2%) [17位]

※産出額、生産量等、いずれも平成26年の値

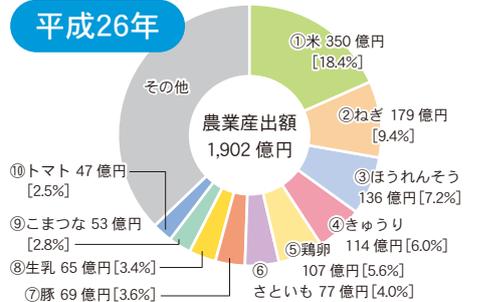
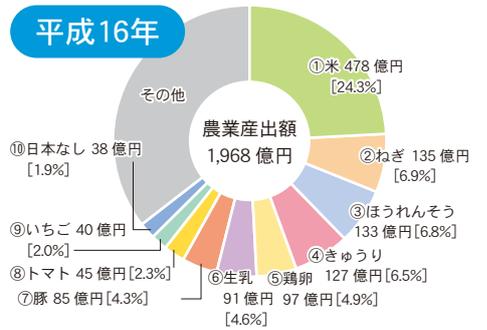
(出典) 農林水産省「生産農業所得統計」

### 農業産出額の構成比



(農林水産省統計部調べ)

### 農業産出額上位 10 品目

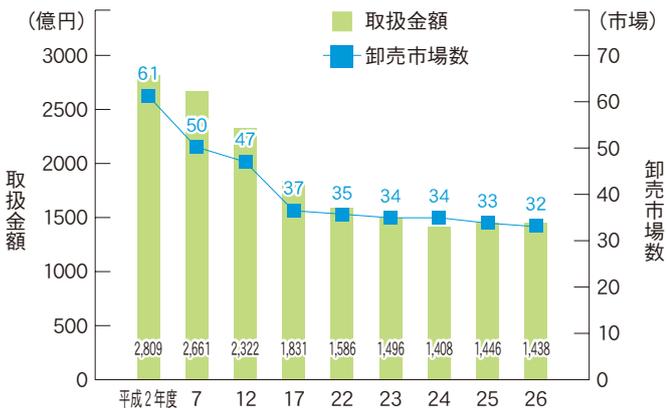


(農林水産省統計部調べ)

### ◆関連産業

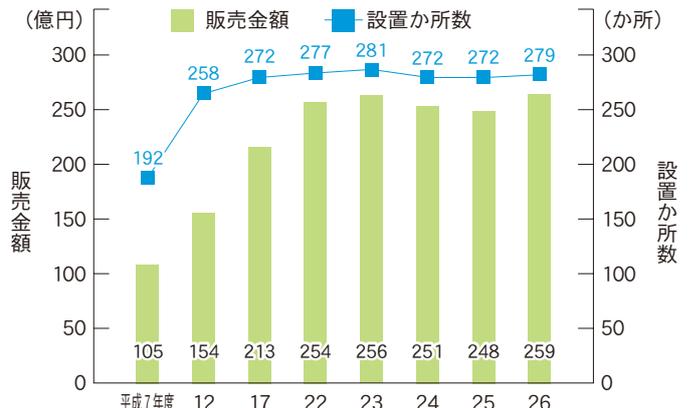
● 有人農産物直売所の販売金額は 259 億円で、  
本県農業産出額の約 13.6% に相当。

#### 卸売市場数と取扱金額の推移



(県農業ビジネス支援課調べ)

#### 有人農産物直売所販売金額と設置か所数の推移



(県農業ビジネス支援課調べ)

● 食料品製造出荷額は 1 兆 5,083 億円で、全国第 3 位。

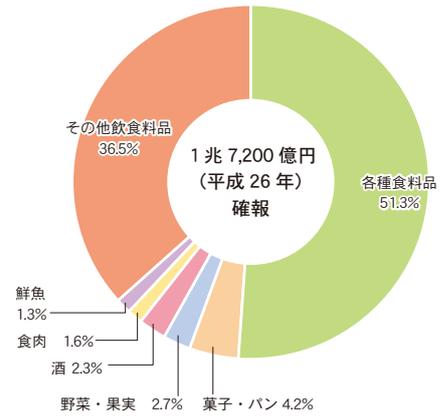
● 飲食料品小売業の販売金額のうち、  
各種食料品が占める割合は 51.3%。

#### 食料品製造出荷額の推移



(経済産業省「工業統計表(品目編)」)

#### 飲食料品小売業の販売金額



(経済産業省「経済センサス(業態別統計編)」)

## ◆部門別動向

### 米

本県の稲作は、4月に田植えをして8月に出荷する県東部地域を中心とする早期栽培から、7月初めまで田植えをして10月に出荷する県北部地域の小麦あと栽培など多岐にわたり、それぞれの地域の条件を生かした米づくりが展開されています。

作付けされる品種は、消費者の良食味志向に対応して「コシヒカリ」「彩のかがやき」「キヌヒカリ」が中心となっています。

特に、本県で育成した「彩のかがやき」は、複数の病害虫に抵抗性がある特性を生かした減農薬栽培を基本に、安全・安心でおいしいお米として、多くの県民から支持されています。

■ [27年産（水稲）]

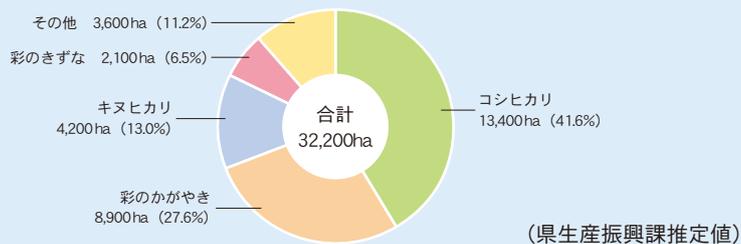
作付面積	生産量
32,200ha (全国第17位)	154,600 t (全国第19位)

(農林水産省統計部調べ)

■地域別水稲栽培方法



■水稲うるち米品種別作付面積割合（平成27年産）



(県生産振興課推定値)



■水稲生産の推移



(注) 陸稲を含まない (農林水産省調べ)

### 麦・大豆

本県は麦の主要な生産県となっており、中でも小麦については、これまで製粉業界等の実需者から比較的高い評価を得てきました。

このため、県では、今後とも実需者の要望に応えられるよう高品質な麦の生産技術の普及・定着やパン用小麦など新たな需要に対応した品種の導入を図るとともに、規模拡大等による生産性の向上を推進しています。

大豆は、麦とともに水田における重要な転作作物として生産されてきました。近年、農商工連携の取組により加工品が開発され、特徴ある在来品種の作付が増加しています。

また、平成23年度から本格実施されている経営所得安定対策の活用により、麦・大豆の一層の生産拡大を進めています。

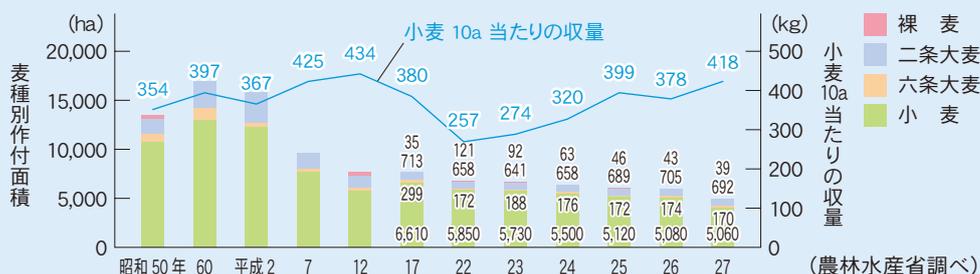
■ 27年産

	作付面積	生産量
麦類	5,960ha (全国第10位)	25,000 t (全国第6位)
大豆	665ha (全国第29位)	605 t (全国第29位)

(農林水産省統計部調べ)



■麦類生産の推移



(農林水産省調べ)

## 野菜

本県の野菜生産は、農業産出額の約51%を占め、主要な作目となっています。主な産地は、さといもやほうれんそうなどの産地である入間地域、ねぎやブロッコリーなどの産地である大里地域、なすやレタスなどの産地である児玉地域などです。

また、周年的に野菜を供給するため、施設栽培も盛んで、大里・児玉・比企・北埼玉地域を中心に、きゅうりやいちご、トマトなどの栽培が行われています。最近は、TPPや米の生産調整の廃止など農業構造を大きく変える政策転換が検討されており、国内外の産地間競争の激化が予想されています。

このため、県では、農作業の省力化による低コスト化や集出荷体制の合理化による高品質な野菜の生産拡大、消費者や食品製造業者などの多様なニーズに対応する産地づくり、ICT等先端技術を使った施設園芸などを進めています。

■ 26年産

作付面積	収穫量
16,100ha	377,720 t

作付面積：農林水産省統計部調べ  
生産量：県生産振興課調べ

### 省力化機械の導入による農作業の低コスト化



ねぎの収穫機による省力化

### 多様なニーズに対応する産地づくり



加工用エンジンのは種作業

### ■ 主な野菜の作付面積（平成26年産）



## 果樹

本県の果樹生産は、なしが果実産出額の約60%を占め、全国第6位（平成26年）となっているほか、ぶどう、くり、うめ、かき、ゆず、すももなど多様な品目が生産されています。

また、近年ではブルーベリー、いちじくなど新しい果樹の植栽も進んでいます。

■ 26年産

品目	作付面積	収穫量
なし	431ha	9,650t
ぶどう	173ha	1,400t
くり	673ha	727t
ブルーベリー	67ha	116t
いちじく	15ha	163t

(農林水産省「果樹生産出荷統計」)(県生産振興課調べ)



本県が育成した大きくて甘い梨「彩玉」



作付拡大が進むいちじく



## 茶・特産物

本県の特産品である狭山茶は、入間市、所沢市、狭山市を中心とする県西部地域において栽培されており、農家自ら生産から販売までを行う形態が主流となっています。

また、繭、こんにやくなどの特産物は県西北部の山間丘陵地域において、気象・土地条件を生かした特徴ある産地づくりが行われています。

	栽培面積	生産量 (収穫量)
茶 (27年産)	890ha (全国第9位)	生葉 2,750 t (全国第13位)
繭 (25年産)	—	12 t (全国第4位)
こんにやく (25年産)	29ha (全国第5位)	494 t (全国第6位)

茶：農林水産省統計部調べ  
 繭：(一財)大日本蚕糸会調べ  
 こんにやく：農林水産省統計部調べ



狭山茶の主産地に広がる茶畑



埼玉県オリジナル蚕品種「いろどり」繭の出荷

## 畜産

本県の畜産は、野菜、米と並んで本県農業の基幹部門となっています。近年は、自給飼料の生産拡大や病気の予防による生産コストの低減、付加価値の高い特色ある畜産物の生産・加工も行われています。

また、生産県であると同時に大消費県であるという本県の特徴を生かし、ふれあい施設や直売施設を設置するなど工夫を凝らした経営や、消費者との交流に積極的に取り組む経営者も増加しています。

	飼養頭羽数 < H26 現在 >
乳用牛	10,900 頭 (全国第21位)
肉用牛	19,400 頭 (全国第29位)
豚	108,500 頭 (全国第23位)
採卵鶏	成鶏メス 25,634 頭 (全国第22位)

(農林水産省「畜産統計」)



県産たまごを使用したたまごパン



観光客が訪れる秩父高原牧場

## 花・植木

本県の花植木生産は、深谷市を中心とする県北地域のユリ、チューリップなどの球根切花、「安行の植木」として全国に名を馳せる県南地域の植木・盆栽類並びに鴻巣市などを中心とした鉢花や花壇用苗物など全国有数の産地を形成しています。

近年では、アジサイやポインセチアが児玉地域を中心に生産され、全国トップレベルの技術を確立しています。

県では、花植木の需要拡大を図るため、花育の推進や花植木商談会の開催について支援を行っています。また、県が育成した芳香シクラメンの生産拡大やユリの香り抑制技術への取組、公園や道路等の緑化を行うボランティアの育成、県が開発した簡易で安価なユニット式植栽基盤等を用いた屋上緑化技術の普及による都市緑化もすすめています。

■ 26 年産

栽培面積
973ha

農林水産省「花き生産出荷統計」及び「花木等生産状況調査」



県が育成した芳香シクラメン



小学生を対象とした花育教室



花植木商談会の開催

## 水産

本県の水産は、養殖業と河川漁業に分けられます。養殖業については、キンギョ・ニシキゴイなどの観賞魚が主体で、本県は全国でも有数の生産県となっています。また、ホンモロコやナマズなどの食用魚も水田を利用して生産されています。

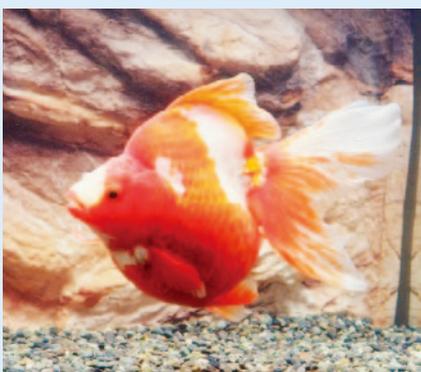
特に、ホンモロコについては、販路拡大を図るため、従来よりも大型のホンモロコ生産に取り組んでいます。

河川漁業については、釣りが県民のレジャーとして定着しており、漁業協同組合が魚類の増殖等を図るとともに、河川や湖沼等の魚場の管理を行っています。

■ 25 年産

漁業養殖業生産量
236t

(県生産振興課調べ)



キンギョ (リュウキン)



ホンモロコ

大型化 (上: 通常 下: 大型)



水田を利用したホンモロコの養殖

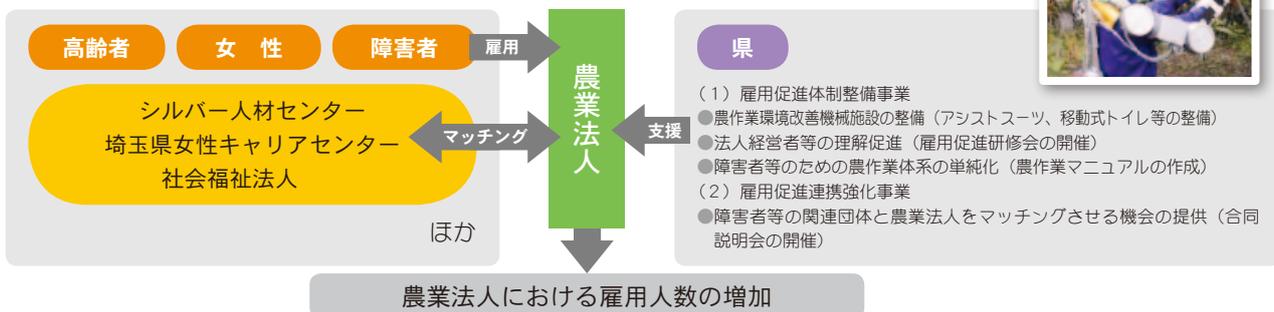
埼玉県の強みを生かした、農林業の「稼ぐ力」、農林業に係わる「人財力」、農山村の「地域力」を高める県の主な取り組みをご紹介します。

## 食料・農業 成長する埼玉農業を支える担い手を育成する

担い手へ農地を集積・集約するとともに、法人化等を支援することで経営力の向上を図ります。また、農業大学校等を活用し、経営感覚を身につけた新規就農者の育成を図ります。さらに、地域農業を支える多様な担い手として女性農業者や高齢者の活動促進、企業等の参入を支援することにより埼玉農業の成長産業化を図ります。

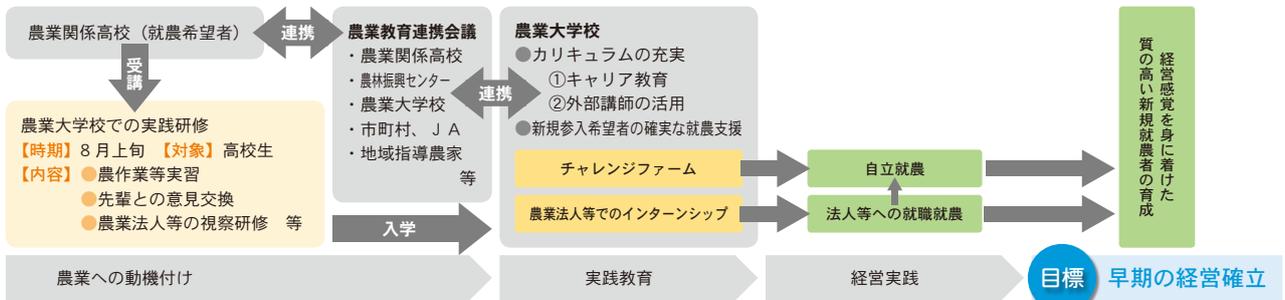
### 主な事業 農業法人雇用促進事業

農業法人において高齢者や女性、障害者が容易に農作業に取り組める体制を整備することにより、多様な人材の雇用を促進し、農業労働力の安定的な確保を図ります。



### 主な事業 埼玉農業フロンティア育成事業

就農への動機づけをより明確化するため、農業高校と農業大学校、市町村等の連携を強化するとともに、農業大学校のカリキュラムの充実を図り、経営感覚を身につけた質の高い新規就農者を育成します。



### 主な事業 農業版ウーマノミクス事業

女性は農業就業人口の約半数を占め、農業の重要な担い手です。女性が持つ感性や視点の豊かさ、消費者目線などの強みを生かした経営発展を目指し、新たなビジネスにチャレンジする女性農業者の取組を支援します。

#### 農業女子ビジネススクールの開設

キャリアアップ講座の実施  
● マーケティングや経営分析等の研修 ● 先進事例の視察 ● ビジネスプランの作成 等

企業への派遣 ● 百貨店や菓子製造会社等で派遣研修

経営力の向上

#### 女性の視点を生かした商品開発

女性農業者等を中心に新たな商品を企画

● 新たな商品開発に支援  
・ 試作に係る製造経費 ・ 栄養成分や機能性成分の分析費 ・ マーケティングに係る市場調査費 等

新たなビジネスの創出

女性農業者が活躍し、農業経営が発展することで、地域農業が活性化する

## 優良農地の確保と農地の有効活用を進める

農業生産の基礎となる優良農地を確保するとともに、農地中間管理事業をフル活用することにより、担い手へ農地を集積・集約化し、農地の有効活用を図ります。また、低コストな農業生産基盤の整備や農業水利施設の長寿命化・耐震化を進め、生産性向上と災害の未然防止を図ります。

### 主な事業 農業生産を支える基盤の整備

農地の大区画化等により、農業生産の向上と営農条件の改善を図り、農地の利用調整による経営規模の拡大や高収益を目指す農業経営体の育成を促進します。また、農業水利施設の整備により、用水不足や排水不良を解消するとともに、防災・減災上、重要な農業用ため池の耐震化と計画的な保全管理を推進し、自然災害の未然防止を図ります。

#### 担い手を育む農地の整備

＝ほ場整備事業＝

- 農地の大区画化
- 耕作道路を拡幅



#### 農業水利施設の整備

＝農地防災事業＝

- 老朽化した農業用ため池等の整備



## 多彩な農産物の生産力を強化する

県内各産地の特徴を生かしながら、品目ごとに実需者ニーズに対応した生産体制の整備を支援するとともに、安定生産などに必要な新たな生産技術等の研究開発を計画的に実施し、県産農産物の生産力を強化します。また、農業生産における環境負荷を低減させ持続可能な農業を促進します。

### 主な事業 オーダーメイド型産地づくり事業

加工・業務用農産物に対する需要が高まっていることから、県内に食品、医薬品、化粧品関連会社が多く立地している本県の強みを生かし、食品・医薬品・化粧品メーカーからの要望に応えられるオーダーメイド型の産地を育成することにより、生産者の経営の安定化を図り、本県農業の競争力強化を目指します。

#### オーダーメイド型産地の育成

##### 県内の食品等加工業者

県産農産物のニーズ



##### 新たな産地

農地を有効活用しニーズのある農産物を生産

産地



マッチング

##### 県の支援



- ◆ オーダーメイド型産地戦略協議会の開催
- ◆ 栽培方法に関する実証や、産地づくりのための専用機械や施設の導入支援

競争力強化による収益力向上  
埼玉の野菜産地等の

## 埼玉農産物の需要拡大を推進する

生産地と消費地が近い利点を生かし、県内量販店や飲食店などでの県産農産物の取扱いの拡大、6次産業化や農商工連携による農産物の高付加価値化、ブランド化の推進や首都圏マーケット、海外への販路の拡大を推進します。これにより、県産農産物の魅力を知って、買って、食べてもらい県産農産物の需要拡大を図ります。また、卸売市場の機能強化等による県産農産物の流通拡大を支援し、県産農産物の需要拡大を図ります。

### 主な事業 埼玉ブランド農産物「知って、買って、食べよう」事業

産地間競争が激化する中で、本県の農業を維持するためには、県産のブランド農産物の魅力を多くの方に知ってもらい、買って、食べてもらう必要があります。

そこで、映像メディア等を活用した県産農産物の情報発信を行うとともに、消費者の方々の購入意欲を喚起します。

#### 情報発信事業

##### スポットCM

ブランド農産物を、わかりやすく、印象的に紹介！



量販店等での上映

##### ブランド農産物特集番組

ブランド農産物の産地魅力をテレビ等で徹底的にPR!



#### 販売促進事業

##### 様々な場所で販売



駅

SA・PA

### 主な事業 埼玉ブランド農産物輸出促進事業

埼玉ブランド農産物の輸出を促進するため、輸出に有望な品目について、ターゲット国において規制の対象となる情報を収集します。

併せて、国やジェトロから得られる輸出関連情報を産地が活用しやすいよう整理するとともに、これらの情報を各ブランド産地へ提供し、県産農産物の輸出拡大に向けた取組を支援します。

#### 【輸出に必要な基礎的條件の整理】

- 残留農薬基準
- 表示規格
- 販売規格
- 商取引の習慣
- 小売価格 等

<調査対象国>

国の輸出重点国（補完調査）、TPP関連国の企業進出等支援国

資料化・マニュアル化

情報提供

埼玉ブランド農産物の産地

基礎的條件を踏まえた生産

販路拡大

埼玉ブランド農産物の輸出拡大

## 食の安全・安心を確保する

消費者の安全・安心な農産物への需要が高まる中、GAPの取組促進や農産物の残留農薬調査、適正な食品表示の徹底などにより生産から消費されるまでの各段階における食の安全・安心を確保します。

### 主な事業 埼玉スマートGAP推進事業

生産者が農業に関係する法令や指針等を遵守し、さらに他者への迷惑もかけないよう正しい農業（Good Agricultural Practice：GAP）に取り組んでいるか、県が現地で確認する取組を開始します。これにより、県産農産物の信頼性をより一層向上させます。

#### 生産者がGAPを実践



例：適切な農薬の管理

#### 県がGAP実践状況を確認



農場評価の実施状況

#### 農産物の安全性・信頼性向上



「伐って・使って、植えて、育てる」森林の循環利用の実現に向け、森の若返りの推進、林業生産性の向上、林業生産を支える担い手の育成を図ります。

## 主な事業 皆伐から始める森の若返りスピードアップ事業

伐期を迎え利用可能な人工林を対象として、皆伐、地拵、再造林、獣害対策、保育を一貫して行う事業体を支援することにより、森林の循環利用と森の若返り、県産木材の安定供給等を促進します。

### 現 状

森の高齢林化が進んでいる

植林～下刈の経費が重荷で、伐採(皆伐)が進まない

### 将 来

幼齢林から高齢林までバランスよく生育する埼玉の森の実現



### 対 策

#### 伐採・再造林を促すインセンティブを与える

高齢となった森林を対象として、伐採から植林、下刈までを一貫して行う森林組合等に対し、作業道をつくる経費や森林に残った枝葉などを片付ける経費、植林や下刈に係る経費を助成します。



連携・一貫作業

# 県産木材の利用を促進する

県産木材の利用を促進するため、木材需要の多くを占める住宅分野での利用拡大やPR効果の高い公共施設等の木造化・木質化を推進するとともに、林地残材などの木質バイオマスの利用を促進します。また、こうした県産木材の利用拡大を支える安定的な供給体制の整備を促進します。

## 主な事業 埼玉の木みんなを使って豊かな暮らし応援事業

高齢化した人工林の循環利用を推進するため、県産木材を使用して、新築・増改築・内装木質化を行う住宅・事務所等を対象として、県産木材の使用量に応じ利用奨励の支援を行う。

### 県産木材の使用量に応じた助成

補助額：1戸最大34万円 (新築・増改築：1㎡あたり17,000円 内装木質化：1㎡あたり3,000円)  
 事業量：250戸相当  
 条 件：新築：県産木材を60%以上使用  
 増改築：県産木材を3㎡以上使用  
 内装木質化：県産木材を15㎡以上使用

補助



### 県産木材

住宅等

新築、改築、内装木質化



# 森林を整備・保全する

水源涵養、二酸化炭素の吸収、土砂災害の防止など県民生活を支える森林の様々な機能を持続的に発揮させるため、間伐、針広混交林化、獣害対策などを適切に実施し、100年先を見据えた多様で健全な森づくりを進めます。

## 主な事業 水源地域の森づくり事業

水源地域において、手入れの遅れやシカ被害等により荒廃し緊急に整備が必要となっている森林を対象として、針広混交林の造成や荒廃森林を再生し、水源涵養機能などの多面的機能の維持向上やスギ花粉の削減、景観向上を図ります。

### 整備前



林内が暗くなったため下草が減り土壌流出のおそれがある森林

### 整備後



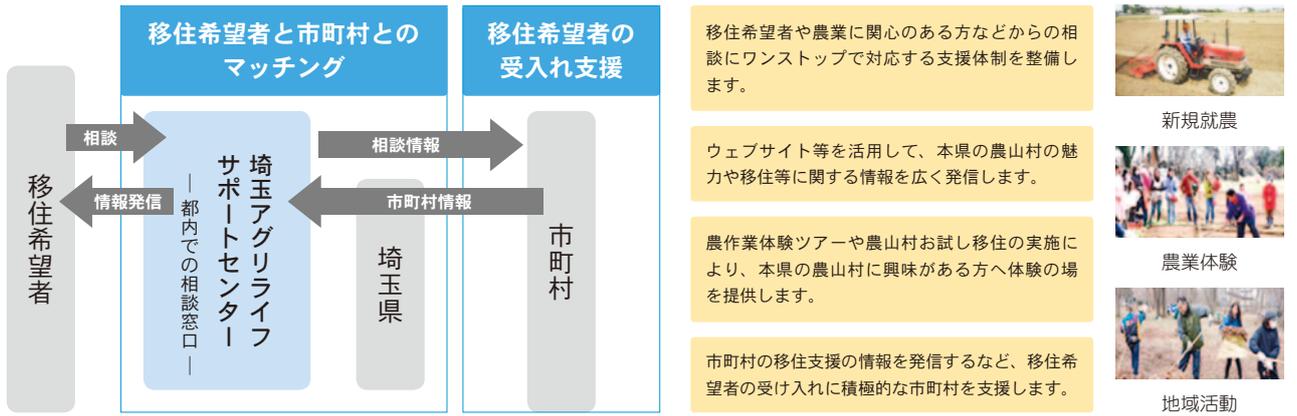
整備され針広混交林化しつつある森林

農山村における生活環境を整備し、地域資源を有効に活用することにより農山村と都市部の交流や移住などの人の流れを作ります。

また、本県の農業は中山間地域から都市地域まで幅広く展開されているため、その地域の特性を生かした農業を支援します。さらに、農業の持つ多面的機能の維持と発揮、鳥獣害防止対策などにより農業生産活動の維持を支援し、活力ある農山村を創出します。

**主な事業** 農山村への移住促進ワンストップ体制整備事業

本県の農山村に関心のある移住希望者等のニーズと農山村地域のニーズをマッチングさせることで農山村での交流活動や移住等を促進し、その活性化を図ります。



県民の農林業・農山村を大切にすることを醸成する

農林業・農山村の重要性を理解してもらうため、グリーン・ツーリズムや市民農園での活動、花育、木育といった体験・学習・交流など、県民が農林業・農山村に触れ合う機会をつくります。また、健全な森林を次世代に引き継ぐため、社会全体で森林を守る気運を醸成して、県民参加による森づくりを促進します。

**主な事業** みんなで育てる森づくり事業 ~森林ボランティア活動の拡大~

- ① 広く県民が森林の大切さを理解し、森林活動を体験する機会の充実を図ります。
- ② 森林ボランティア団体の活動を支援します。
- ③ 森林ボランティア活動を希望する県民に対して、森林における安全作業を学習できる機会の充実を図ります。
- ④ 県内の森林において、社会貢献を目的とした森づくりを希望する企業が活動しやすい環境の整備を進めます。



# 農林業・農山村の多様な役割

本県の農林業は県民への食料の安定供給や木材生産といった基本的な役割に加えて、県土の保全、水源のかん養、水質・大気浄化、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など多様な役割を担っています。



(さいたま水族館提供)

元気いっぱい!! 埼玉農林業



<https://www.facebook.com/saitama.nourin>



[https://twitter.com/saitama\\_nourin](https://twitter.com/saitama_nourin)

2016年  
「埼玉の食料・農林業・農山村」  
平成28年7月発行

編集 発行：埼玉県農林部

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3丁目15番1号  
電話 048-830-4031



この冊子は再生紙を使用しています